

がんばろう 南三陸町

復興第89号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター



南三陸町の戸倉公民館2階に整備された、「自然環境活用センター」の復旧にあたり、100名を超える地域民・町関係者をはじめ、多くの報道関係者が集まった。

開会にあたり佐藤町長はいさつで、「震災から9年目、おかげ様で戸倉地区に完成した」。震災前まで横浜先生の元で、南三陸町の海の生物の研究や調査をおこなっていた。「地方自治体ではじめての電子顕微鏡も設置した」。多くの研究資料も流出した中で、異例の早さで復旧した事を伝えた。

三浦会議議長は『「自然と共生する町」として、自然活用の研究は世界でも認められている。』『世界に向け発信していただきたい。』と祝辞を述べた。

引き続き、自然環境活用センター研究員の阿部拓三先生の「南三陸町の自然環境について」の説明をおこなった。「町営の海の活用とネイチャーセンター」として、800点の生物標本は津波により流出したものの、2012年から情報収集を始め、今では1000点を超える生活標本を集めている。海藻が220種、生物は600種となり、豊かな海である事を証明している。

ラムサール認定には9つの項目があり、1つでもクリアすればラムサール認定を受けられるが、志津川湾においては5つをクリアしている。

志津川湾には暖かい海のアラメ、寒い海のコンブが共生している。北からの親潮と南からの黒潮、日本海側からの津軽海流の3つが南三陸に流れ込み、生物

の多様性を生んでいる。今では、温暖化のせい「イセイエビ」が獲れる様になったと話す。天然記念物のコクガンも100～300羽が南三陸町に飛来する素晴らしい海辺の環境が整った町です。

この後「南三陸町少年少女自然調査隊」の活動発表、「戸倉小学校6年生」の発表、「志津川高等学校自然科学部」が調査報告を行なった。



現在は52人が学ぶ戸倉小は、「元気な声でいさつをする事」を学校の目標にかかげています、と今を伝えた。震災前の映像では「以前の校舎からは海が見えたそうです。」と紹介してくれた。

私たちは平成26年の入学で、志津川小学校で勉強していました。震災後に戸倉松原の前の海辺で「あさり採りをし、いっぱいあさが採れた。水門や防潮堤が壊れていても、海の豊かさにビックリした。」「海がもどってきていると思った。」と話す。カレーの稚魚の放流では、「大きくなれ、ガンバレ!」と赤ちゃんカレーを送り出した。

最後に、学び・考えた事として、平成27年にはまだ新しい防潮堤はなかった。2019年の5年生のサケの放流の海での活動で「大切な海を守ること」「命を守るためには防潮堤が必要。」と語った。「これからも豊かな海を守っていききたい。これからは勉強していききたい」と発表を締めた。

基調講演では、青森県むつ市海と森あふれる体験館の五十嵐館長が「陸奥湾を探り、世界を知る ～化学する心を育み歩む～」と題しておこなった。来場者からの質疑応答も行った。

ら実地調査もかねて、仕事を終えた後毎晩のように歌津沿岸の漁港を回って釣りを続けている。

◆住民同士が車を共同利用するカーシェアリング事業の、実証運行が入谷林際地区で始まった。林際地区は乗合バスの停留所まで遠く、利用しにくいなど住民の移動手段の確保が課題になっている。

◆気仙沼・本吉地区中総体の駅伝大会が5日に行なわれた。本吉町津谷地区の表山田振興会館周辺コースで行われ、女子は志津川が優勝、男子は志津川2位となった。10月9日に栗原市若柳で開かれる県大会に出場する。

◆東京パラリンピックに向け事前合宿を行っている、チリのカヌー選手2人が4日、南三陸町を訪れた。訪問したのは女子のカタリン・ウォラマン選手と男子のロビンソン・メンデス選手で、志津川高校生と交流した。友好の証としてチリから贈られたモアイ像も見学した。

◆南三陸町観光協会は「南三陸まるごとクーポンブック」を発売した。一冊千円で購入し、11月1日から2月末までに対象店舗やイベントで提示すれば、掲載されている割引やサービスが受けられる。

◆九州北部地方の豪雨災害で被災した佐賀県多

2019年地区ごとの 南三陸町人口の推移

(令和元年12月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年12月	12,987	5,328	1,427	1,952	4,280
元年12月	12,691	5,170	1,384	1,934	4,203
30年12月からの増減数	-296	-158	-43	-18	-77
元年11月からの増減数	-23	-11	-2	2	-12
世帯数	4513	—	—	—	—

(2020年1月の新聞記事より)

・1年間で296人減少。年間出生数はこの10年で最も少ない53人とどまった。
・昨年の出生数53人に対し、死亡は187人で134人の自然減。

志津川湾「おすばでまつり」

2011年から続く南三陸福興市は、今回で第96回を迎え、2020年4月で100回目となる。

会場には沢山の来場者が町内外から、南三陸町の海のお正月のお膳に乗せようと、品さだめに身動きとれないほどの混雑となっていた。「かき汁」「手打ちそば」などのサービスコーナーもあり、休憩場は荷物を持つ人たちで埋まった。

最大のお目当ては「志津川真だこ」そして「アワビ」などが上げられる。お正月の用品として2店のかまぼこ店が軒をならべる。

その他にも南三陸のワイナリーの「ワイン」、庄内のくだもの、まぐろの刺身用ブロックにも行列ができていた。志津川高校ののぼりも立ち、「志高魂を胸に!」と生徒も支援していた。

今回は1年間の福興市のお礼をかね、「愛町の笑ひ」と樽酒も振る舞われた。

久市に、男性職員3人を派遣する。多久市からは2012年度から18年度まで、町に応援職員が派遣されている。

◆8日南三陸町サンオーレそではま海水浴場で、ビーチアルティメット大会が開かれた。東北や関東の大学生、社会人などこれまでで最多の16チーム約200人が出場した。ビーチアルティメットはフライングディスクをパスでつないで、得点を競うもので砂浜をフィールドにしたもの。

◆志津川地区で進める道の駅整備で、建築家隈研吾さん主宰の「隈研吾建築都市設計事務所」に設計業務を委託した。2021年4月のオープンを目指している。

◆気仙沼、南三陸消防署員10人が殉職し、2014年3月広域事務組合職員互助会が、南三陸消防署仮庁舎敷地内に殉職者慰霊碑を建立した。慰霊碑は再建された南三陸消防署の敷地内に移設され、このほど御霊入れの供養が行なわれた。

◆15日上の山八幡宮で「秋まつり」に合せた稚児行列が行なわれた。子供たちの健やかな成長を願う行事として、毎年行われてきた稚児行列。今年は25人が参加した。

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年)
～地元報道より～

9月の出来事

南三陸町

◆志津川の八幡川町行政区が1日、解散総会をホテル観洋で行った。町内外に散り散りになった住民が約8年半ぶりに集まった。約60人が参加。震災後初めて会う住民もいて、再会を喜びながら近況報告などに花が咲いていた。

◆東日本大震災で全壊した南三陸消防署の落成式が2日、新庁舎で行なわれた。新庁舎は志津川中央団地内に、鉄筋コンクリートの平屋建て。屋外には鉄骨造りで、5階建てと3階建ての訓練棟2棟を整備した。

◆志津川のサンオーレそではま海水浴場は今シーズンの来場者は4万5050人。昨シーズンには及ばなかったものの上々の結果で終わった。

◆歌津柁沢の高橋才太郎さんが泊漁港で、体長1メートルのタチウオを釣り上げた。志津川蛸研究所所長の肩書も持っている。3年ほど前か